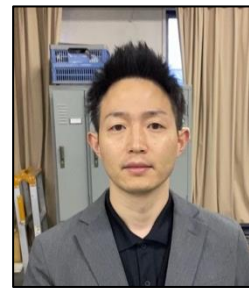


保育者養成校における造形ゼミの卒業研究の一例

— 知育玩具の制作と保育現場での実践 —

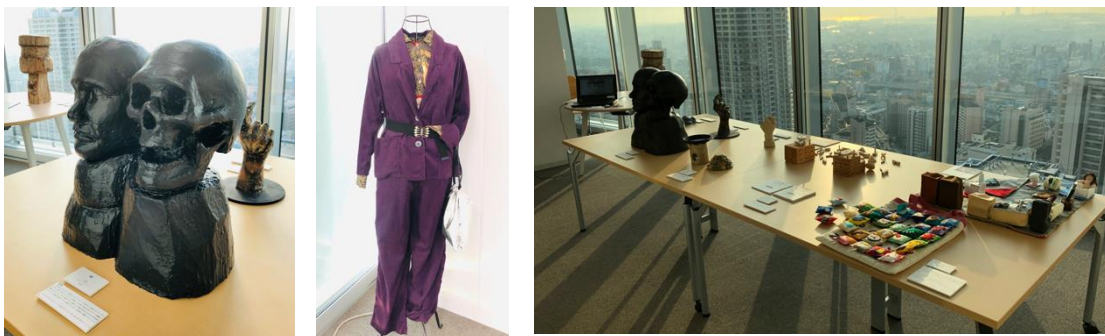


大阪大谷大学 教育学部
准教授 山本将之

1. はじめに

大阪大谷大学に着任し、8年が経ちました。着任当初に「指導が難しい」と感じた科目は『卒業研究』です。本学の『卒業研究』は「論文」あるいは「卒業制作」を選択することができます。論文であれば1万2千字を、卒業制作であれば作品+副論文6千字を課します。

着任当初は学生個々の興味に沿った論文題目や制作を認めており、あべのハルカスキャンパスで卒業制作展も開催していました。

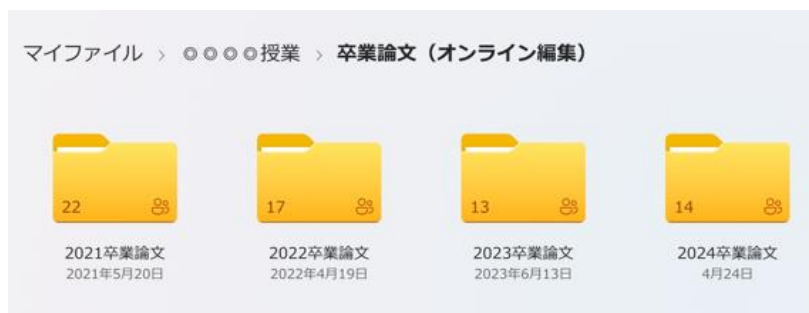


着任当初の「卒業制作」の作品と、あべのハルカスキャンパスでの卒業展覧会の様子

そのため、論文や卒業制作について厳しく指導していましたが、その厳しさとは裏腹に、学生の達成感が今ひとつ高まりきらない現実もありました。その要因には、卒業制作展にほとんど人が来ないことや、展覧会当番の学生を長時間拘束せざるを得ない状況などが考えられました。このような課題を受け、筆者なりに模索を続けた「学生の達成感を高める『卒業研究』のあり方」を今回紹介させていただきます。

2. クラウドを用いた卒論指導

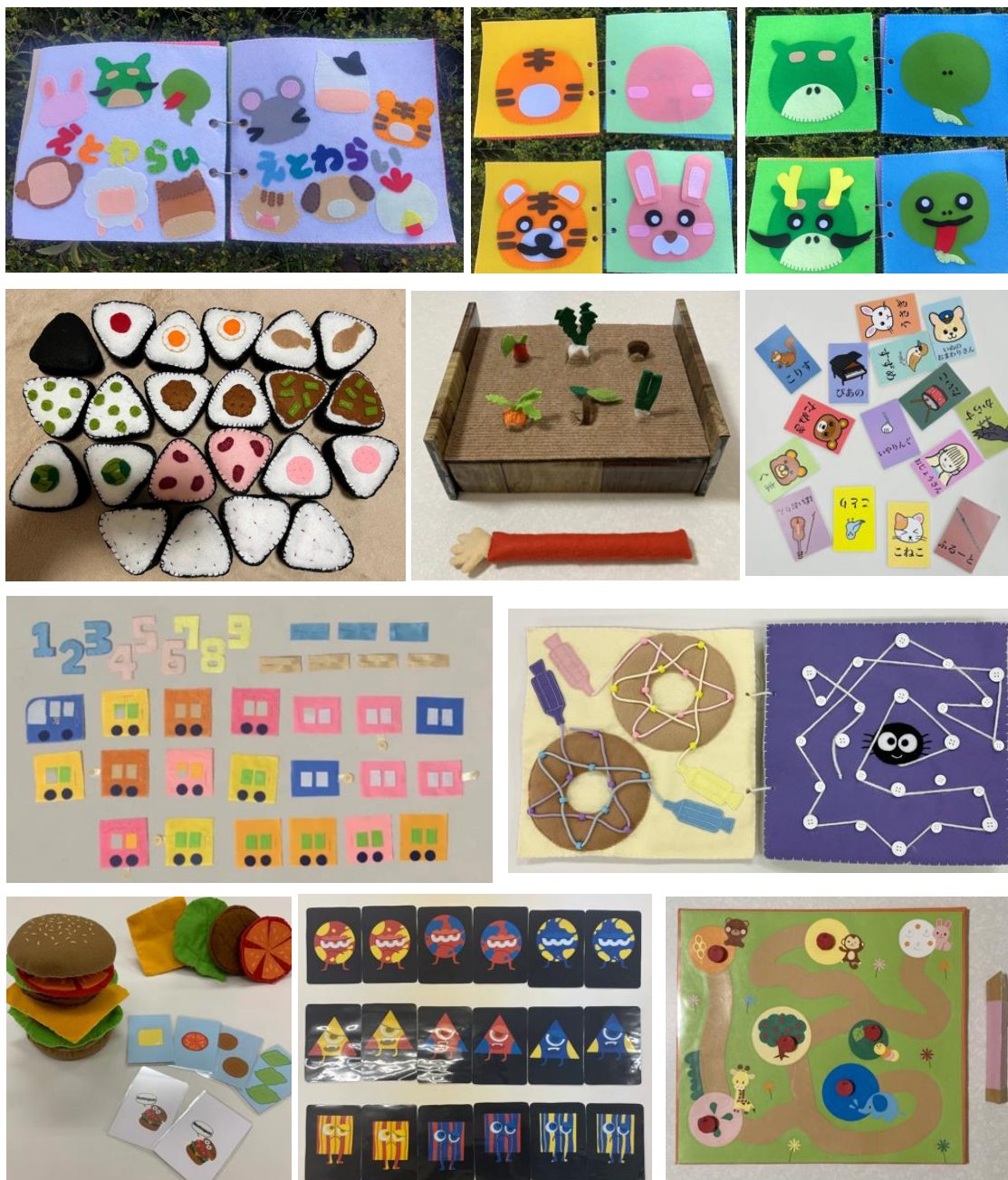
『卒業研究』は、「論文」と「制作」いずれを選択しても執筆が課せられます。そのため論文指導が必須になりますが、学生に PC などの端末を持って来させることは容易ではなく、短い期間での定期的な論文指導に難しさを感じていました。そのため、クラウドに論文雛形を作成し、学生が WEB 上で執筆できるようにしました。これにより、いつでも論文の進捗状況をチェックできるようになり、学生個々への細やかな指導が可能になりました。



クラウド上の卒業論文:過去の卒論を4回生に公開しており、先輩の卒論をWEBで確認できるようにしています。

3. 学生が制作した卒業生制作

卒業研究は①興味に準じた論文または②知育玩具の制作+副論文としました。本章では学生が制作した知育玩具のいくつかを写真で紹介します。



知育玩具を題材とした卒業制作。どんな遊び方なのか、ぜひ写真を見て想像してみてください。

4. 保育現場での実践

着任初年度から数年間は慣例を踏襲し、卒業制作展を実施していましたが、先に述べた通り、労力に対する学生の達成感が見合っていませんでした。そのため、制作したおもちゃを近隣の幼稚園に持参し、「手作りおもちゃランド」と称した実践機会を学生に提供することにしました。以下、その様子を写真で紹介します。



大学の近隣の公立園で実施している、卒業制作のおもちゃで遊ぶ「手作りおもちゃランド」の様子

5. オンライン卒業制作展

コロナ禍に卒業制作展の開催が困難になったことを受け、WEB 上での成果発表に切り替えました。興味を持っていただけるようでしたら、ぜひ下記 QR コードからホームページを覗いていただけましたら幸いです。



オンライン卒業制作展の QRコードと、ホームページのホーム画面

6. おわりに

卒業研究は教員も学生も多大なる労力を費やすにも関わらず、達成感が低い点に課題意識を感じていました。特に本学の場合、教育学部の卒業研究に発表機会がなく、「教務課に提出したら終わり」という授業の締め方のため、「卒業するため嫌々こなしている」学生が多いように感じます。そのような中、実践機会を設けることで「子どものために頑張ろう」「子どもが喜ぶおもちゃをつくろう」という目的意識が明確になり、通年科目を集中して受講できるようになりました。またクラウドを活用することで、卒業制作のみならず論文も丁寧に指導できるようになったことから、学生から「卒業研究をやってよかった」という声が聞かれるようになりました。この卒業研究のあり方が「良い」と言いたいわけではなく、教員の課題意識の共有がどなたかの参考になればと願い、今回紹介させていただきました。ゼミ活動の写真を先のホームページに掲載しておりますので、是非忌憚のないご意見をお寄せいただけましたら幸いです。ご一読いただきありがとうございます。